



これからも自分らしく生きることをあきらめないで済む社会、どんな生き方を選んでも尊重される社会を目指しひとりひとりに寄り添う市政の実現に向けて活動します。



## 6月議会で市立病院について一般質問しました!

加速する少子超高齢化社会において、公立病院の将来像を考え安心につながる医療体制の充実を要望しました。

- 青葉病院 平成 15 年開設 病床数 320 床
- 海浜病院 昭和 59 年開設 病床数 293 床



■ 千葉市医療のうち両病院のシェア率：青葉病院 7.3% 海浜病院 7.9%

**【質問】** 市立病院の経営状況と市立病院改革プランの進捗状況

**【市の答弁】** 平成 23 年 4 月に地方公営企業法全部適用に移行。25 年度以降、人的投資、設備投資に応じた医業収益を確保できず、**5 年連続の赤字**が続き、29 年度末では病院事業全体で**81 億円**の累積欠損金を抱える。第 4 期市立病院改革プランの取組みとして、経営改善に関する専門的な知識や実績を有する事業者の助言を受けながら、開業医訪問などによる集患や委託料などの費用削減に取り組んでいる。

**【質問】** 千葉保健医療圏の現状について

**【市の答弁】** 千葉保健医療圏とその範囲を同じくする本市における一日当たりの入院患者数は、高齢者人口の増加に伴い、**2015年の 5,650 人から、2030 年には 7,000 人まで増加することが見込まれる**。医療需要の面では、**入院が必要な患者の約 8 割が市内に入院する**など、現在の医療需要に対応できているものと考えられる。医療資源では、**規模の大きい急性期の基幹施設が中央区に集中する**ほか、人口当たりの医師数は、県全体では全国平均を下回るもの、市内でみると**全国平均を上回っている**状況。

**【質問】** 両市立病院の医療の現状と課題、検討の方向性について

**【市の答弁】** 青葉病院では、血液疾患や内分泌系、腎・尿路系疾患で市内シェアが高く、整形外科でも各領域が揃っており、市内シェアが高い状況。**海浜病院では、小児・周産期医療で市内シェアが高い一方で整形外科等の体制が整備されていないため、高齢者医療への対応が十分でないなどの課題がある**。他の医療機関との機能分担を前提とした特徴的な医療の実施や**高齢者等への総合的な医療を確保し、将来にわたって安定かつ効率的に医療を提供する体制について検討する必要がある**。

**【質問】** 地域包括ケアシステム等(在宅医療・介護の連携)への対応における現状

**【市の答弁】** 在宅療養後方支援病院として、在宅医療を行う診療所等との連携を図っているが、市内の在宅医療等の需要は**2035 年まで増加し、2013 年比で 2.3 倍程度の需要が見込まれている**。

**【質問】** 小児・周産期母子医療の現状と課題、検討の方向性について

**【市の答弁】** 分娩を取り扱っている医療機関は一定数あるものの、ハイリスク分娩は、海浜病院と千葉大学医学部附属病院でそのほとんどを受け入れ。海浜病院は、**地域小児科センターとして、小児の救急疾患から一般診療、専門治療まで幅広い診療を行っており、市内シェアは高い**。

海浜病院は、**小児・周産期医療で市の中心的な役割**を担っており今後も持続可能な体制を構築していく方向で検討していく必要がある。

**【質問】** 千葉市域の救急医療体制で、両市立病院の担っている役割と検討の方向性について



### 救急医療体制の現状

搬送先決定までにかかる時間は、政令市の中でも遅く**全国平均が 39.3 分**に対し、本市では**44 分**。

**【市の答弁】** 青葉病院では、**年間 5,000 件 (シェア率 11.8%)** の救急搬送を受け入れ、夜間の受入れシェアが高い。海浜病院では、夜間応急診療を除いて、**年間 3,600 件 (シェア率 7.6%)** の救急搬送を受け入れており、**小児の救急搬送が 1,700 件**を占めているが、今年度から、より多くの救急搬送を受け入れるため、**成人・高齢者の救急医療体制の強化**に取り組んでいる。**( 救急医療体制の強化のため、救急科の新設の議案も可決。 )**

**【質問】** 県救急医療センターの移転を踏まえ、今後の海浜病院との連携についてどのように考えているのか?

### たばたの考え方

海浜病院は第三次救急医療機関である県救急医療センターと隣接。県は、**美浜区豊砂に県救急医療センター及び県精神科医療センターの一体的整備による新病院、仮称千葉県総合救急災害医療センターを建設する**。県の新病院は、災害医療のハブ的役割を担うほか、医療圏内市立病院と大学病院による患者受入相互支援のためネットワーク化を図ることであり、**さらなる連携を期待する**。

**【市の答弁】** 海浜病院は二次医療機関、**県救急医療センター**は三次医療機関としての役割を担っている。二次医療機関である海浜病院では対応できない、**脳卒中、心筋梗塞、頭部損傷や複数の診療科領域にわたる重篤な患者**については、**県救急医療センターへの転送を行っており、県救急医療センターの移転後についても現在と同様に緊密な連携をとっていく必要があるものと認識**。

## たばたの考え方

液状化の可能性は高いものの、揺れ、人的被害、建物の倒壊など、他の区と比較して、相対的に被害は少ないとされている。**海浜病院は、老朽化の進行による安全性が懸念される。**県の高潮の被害想定によると室戸台風と同規模の過去最大級の台風が直撃した場合、東京湾岸では2~5メートルの高潮が発生し、**浸水被害は中央区や美浜区を中心**に約5,000ヘクタールと予測されていることから、建て替えの際には建物の構造や設備、立地を考慮する必要があると考える。

## 【質問】 東日本大震災を踏まえ、災害医療の現状と課題検討の方向性について

**【市の答弁】** 両市立病院のほか、県救急医療センター、国立千葉医療センター、千葉大学医学部附属病院の5つの病院が地域災害拠点病院として指定され、医療チームを派遣するとともに、患者の積極的受け入れを図る。引き続き、**地域災害拠点病院として、必要な体制整備を行い、機能の充実・強化を図ることを検討する必要がある。**

**【質問】** 美浜区において、どのように災害医療を行っていく必要があると考えるのか？

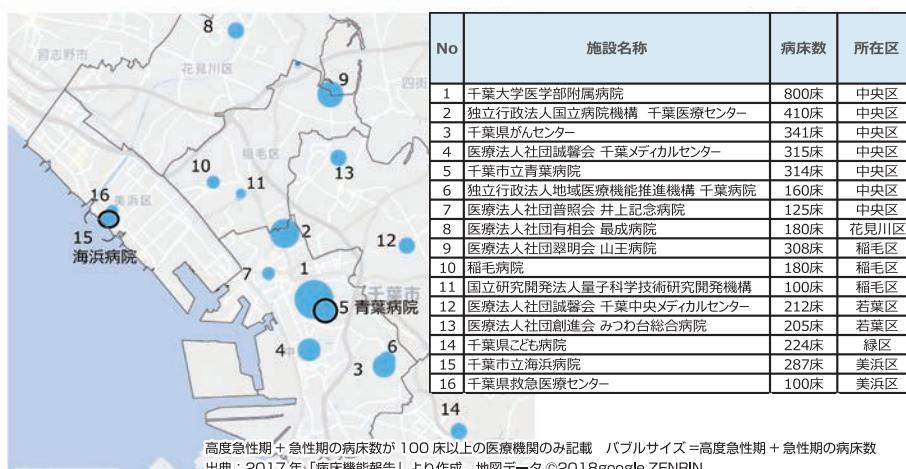
**【市の答弁】** 海浜病院は、災害時における被災リスクが高い地域に位置しているが、地域災害拠点病院として機能しうる限り病者を積極的に受け入れることが使命である。これに備えて、**浸水発生時における患者避難訓練や県救急医療センターと合同で多数の高病者が発生した場合の受け入れ訓練を毎年度実施しております。**

## たばた直子の意見要望

- 将来必要とされる医療を見据え、公立病院の役割を明確化し、経営改善を図りながら、安定した人材確保と医療の充実を!
  - 海浜病院は老朽化が深刻なことから、早期に建て替えを!
  - 中央のエリアは大病院が多く、美浜区のある西エリアには少ないことから、経営競争の観点からも、他の医療機関の配置状況を踏まえ配置の分散を図り、両市立病院の役割を分担することが効果的!

急性期病院

## ※中央区に7か所 若葉区・美浜区2か所、緑区、花見川区1か所 急性期病院(100床以上)の配置状況

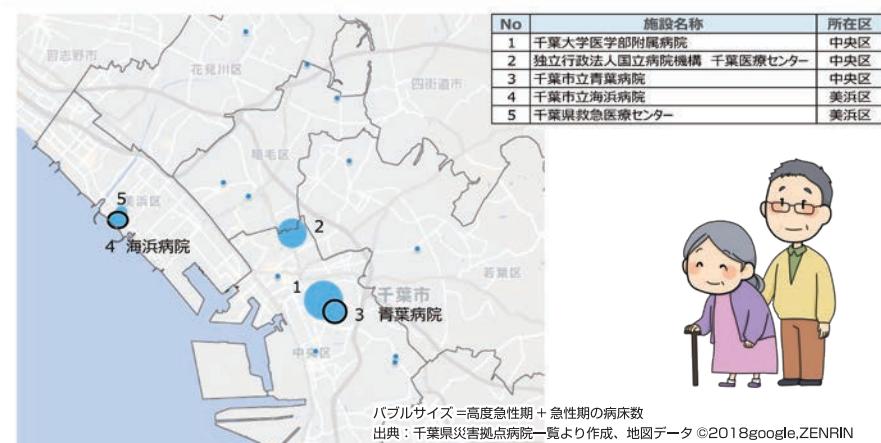


**周産期母子医療施設3か所 分娩可能病院5か所 有床診療所9か所**



災害拠点病院

## 災害拠点病院の配置状況



## たばた直子の意見要望



- 千葉市直下型地震が予想されるなど、震災が発生する可能性の高い本市では、災害拠点病院として円滑に医療を提供できる体制整備や設備拡充など機能強化が必要!
  - 災害時には、各市立病院で近隣の医療施設と連携の必要があることから、建てかえの際には、県の新病院との連携が可能となる近接した立地が望ましい。災害時要援護者となる高齢者等への対応についても、対応力の強化が求められる。災害医療の充実!
  - 在宅医療の需要は 2035 年まで増加し、2013 年と比べ、1 万人の増加が見込まれる。回復期医療による支援体制の拡充とともに、実績のある急性期医療や高度な政策医療の維持を両市立病院で担うことが必要!
  - 建て替え時には海浜病院行きのバス便減少による利便性の低下や病児・病後児保育の不足解消!

現! 私が作成し、我が会派が提出した保育所等の通園・散歩で利用する道路の安全対策に関する意見書を自民党と共同提案し全会派一致で可決、国と県へ送付しました!

私は、会派提出の意見書案を作成しました。また、国と県だけではなく、千葉市に  
対しても、道路の危険個所の把握のみならず、情報を集約し、緊急性や優先順位  
をつけ、保育所所管と道路部門が連携して、早急に対応するよう求めました。

## 《 交通安全対策の推進を求める意見書 》

記

1. 交通安全対策を推進し、必要な財政措置を行うこと。
  2. 保育所及び幼稚園等の周囲をスクールゾーンに準じたゾーンに位置づけること。また、子供が利用する交通事故の危険性が高い道路について、交通信号機や横断歩道、規制標識の整備などの交通安全対策を早急に行うこと。
  3. 保育所及び幼稚園等の散歩の安全確保に向けたガイドラインを策定すること。